

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

学びあい 認めあい 支えあい 夢をはぐむ あいざわっ子
 【知】自ら考え 学び続ける子を育てます
 【徳】自分も 周りの人も 大切にすることを育てます
 【体】進んで 健康的な生活をする子を育てます
 【公】自分の役割を考えて 行動する子を育てます
 【開】目標に向かって ねばり強く取り組む子を育てます

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力	具体化した資質・能力
持続可能な社会の創造に貢献する力	○自己有用感 ○思いや考えを表現する力

中期取組目標

学校教育目標を実現するために「だれもが安心して生活できる、活気のある、笑顔あふれる学校づくり」を目指します。
 ○職員が主体的に学校運営に参画し、互いに連携・協働し合い、活気にあふれた学校運営組織を確立します。
 ○学習の基礎基本を身につけ、粘り強く学習に取り組む子を育てます。
 ○一人ひとりの子どもが認められ安心して生活・学習できるように、児童理解・児童支援体制、特別支援教育を充実していきます。
 ○小中一貫推進ブロックや地域、家庭との連携を更に深め、信頼される学校づくりを推進します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①家庭学習のねらい(本校の場合は反復練習の大切さ)を教職員と保護者で共通理解することで、家庭学習の習慣化を図る。②学習の中で「ふり返り」に重点をおき、知識・理解の定着とともに、自己変容への気付きのある「ふり返り」を目指す。
担当	学力向上委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力向上に関わる本校の実態
 本校の学力層は、横浜市平均値と比較して、下回る傾向は続いている。しかし、昨年度に比べると教科ごとに伸びてきている教科もある。
 【国語】
 ○物語文などの登場人物の気持ちを読み取りのところで、比較的できているが、説明文などの資料や情報の読み取りができていない。
 ▼語彙や気持ちを表す言葉の習得が不十分のため、表現できなかつたり、正しく使うことができなかつたりする。そのために文章の内容や質問の内容を的確にとらえ、自分の気持ちを表現できるよう指導していく。
 【算数】
 ○どの学年も、授業中は学習の理解が見られるものの、学習して時間が経過したものの(既習事項の内容)の定着が不十分。空間図形など図形問題で多角的に見ることが難しい。
 ▼既習事項の定着を図るために、年間を通して復習する。計算(図形問題も同様)においても繰り返し問題を解いたりしていくことで、学習内容の理解を深められるようにしていく。
 ▼「一日にどのくらい学習をしていますか」という問いについては、2年生から6年生まで、30分以上1時間以内での回答数が多かった。学年に応じて、家庭学習の取り組み方について、学校と家庭とが協力して取り組むことができるように指導していきたい。

(2)これまでの学校の取り組み
 ○読書の推進。週1回、「よむよむタイム」を設け、10から15分間読書に集中する時間を作り、全校で読書に取り組む活動をした。また、隙間読書もできるよう、つねに机の中やロッカーの中などに本を携帯するようにし、読書ができる環境作りを行った。
 ○家庭学習では、家庭の協力を仰ぐため、家庭での丸付けやサインをお願いし、学校と家庭とで協力して学習を見ていく体制づくりをした。

今年度の目標

①家庭学習では、「音読」「漢字練習」「計算練習」の3つを全学年で取り組み、学習の基礎基本の定着を図る。②振り返りの視点を絞り、学習の中でふり返り活動の定着を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○家庭学習では、「相沢ラーニングプラン」を各家庭に配布して、教員と保護者が共通理解のもと、家庭学習に取り組む。今年度から、「音読」「漢字練習」「計算練習」の3つを宿題にすることで、国語と算数の基礎基本の定着を図る。 ○国語の授業の中で、並行読書を勧め、隙間時間も読書に取り組めるよう声かけをしたり、学習環境を整えていく。読書することで、語彙力を高めていくことを目的としていきたい。 ○「振り返りの視点」を各クラスに掲示し、振り返りの活動のたびに、視点を絞って、振り返り活動が行えるよう支援、声かけをしていく。	○家庭学習では、家庭学習が定着してきた段階で、漢字や言葉の習得を確実に身につけていけるように支援していく。 ○語彙力を高めていくために、学習で出てきた語彙集めをしたり、意味調べをしたりして、語彙の定着を図る。 ○振り返りの活動が定着してきた段階で、振り返りの文字数を決めたり、振り返りの内容を深められたりするように、振り返りのやり方を工夫していく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①いのちの学習や道徳科の授業、人権、ピアサポートの取り組みを成長段階に応じて進めていく。 ②人権週間の取組に系統性をもたせ、6年間を通して人権について学べるようにする。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる本校児童の実態
 ○自分から挨拶をすることができる児童と、教員が挨拶をしたら挨拶をする児童と、声には出さず会釈をする児童の3つのパターンに分かれている。
 ○他学年との関わりや、下級生のお世話活動については、意欲的に取り組むことができる児童が増えている。
 ○自己肯定感が低い児童も多い為、認められたい褒められたりする経験を積むことで、活動に意欲的に取り組めるようになる児童が多い。
 ○自分の気持ちを言葉にすることができず、手を出してしまう等、友達とトラブルになる児童もいる。
 ○相手の気持ちを考えることが難しい児童もいる。
 ○家庭環境が複雑な児童もいる為、家庭の協力が得られにくい場合がある。
 ○外国につながる児童が多い。
 ○横浜市学力・学習状況調査では、ほかの人の気持ちや表情の変化に気が付きやすい方と感じている児童は、各学年約80%となっているが、市の平均と比べると、ほとんどの学年で下回っている。

(2)これまでの本校での取り組み
 ○令和2年度から令和4年度までの3年間、本校の重点研究科目として、特別の教科道徳の研究を、学校全体で進めてきた。
 ○各学級、様々な国籍の児童が在籍していることもあり、多様な意見交換をすることができた。

今年度の目標

①いのちの学習や人権学習にかかわる取組、ペア学年交流を主としたピアサポートの活動を充実させることで、自分や周りの人を大切にできる児童の育成を図る。②自己を見つめ、話し合いを通して多様な考え方に気付き、自分の考えを深めていくことができるような道徳の授業を目指して、授業改善を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○教科横断的な学習を実施していくことで、各教科を関連させながら、「いのちの学習」の推進をしていく。実施した取組については記録を残し、学年ごとの「いのちの学習」ファイルに綴じていく。 ○児童一人ひとりが認められ、安心して生活できるような学校をめざし、発達段階に応じて人権の3つの重点「整える・つなげる・深める」を定め、教科領域等との関わりを意識しながら、継続した人権学習を行う。 ○他学年とのつながりを大切にし、児童の自尊感情を高め、互いに支えあう関係づくりをめざして、ピア・サポートの活動を充実させる。(6年生による1年生のお世話活動、1・6年、2・5年、3・4年のペア活動) ○教室環境の整備や、学習の総合化、発問や授業の流れについて教材研究を行い、道徳の授業の充実を図る。 ○毎時間、学習の振り返りを行うことで、児童の心情の変化を見ていく。 ○豊かな心に関する取組の様子を、学年だよりや学校だより、学校ホームページ等で家庭や地域に発信する。	○教科横断的な学習を実施していくことで、各教科を関連させながら、「いのちの学習」の推進をしていく。実施した取組については記録を残し、学年ごとの「いのちの学習」ファイルに綴じていく。 ○5年生を対象とした、赤ちゃん教室を実施する。 ○児童一人ひとりが認められ、安心して生活できるような学校をめざし、発達段階に応じて人権の3つの重点「整える・つなげる・深める」を定め、教科領域等との関わりを意識しながら、継続した人権学習を行う。 ○他学年とのつながりを大切にし、児童の自尊感情を高め、互いに支えあう関係づくりをめざして、ピア・サポートの活動を充実させる。(6年生による1年生のお世話活動、1・6年、2・5年、3・4年のペア活動、5年生を対象とした幼保小交流とピア・サポート・プログラムのトレーニング) ○教室環境の整備や、学習の総合化、発問や授業の流れについて教材研究を行い、道徳の授業の充実を図る。 ○毎時間、学習の振り返りを行うことで、児童の心情の変化を見ていく。 ○豊かな心に関する取組の様子を、学年だよりや学校だより、学校ホームページ等で家庭や地域に発信する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①アウトメディアについて、児童の実態をつかみ、ニーズに合った指導ができるようにする。保護者の協力を得るために具体例を挙げて情報を提供する。②体力を高めるための具体的な取組を、児童と共に考え実践する。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
 ○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合が平均して70%を超えている。
 ○横浜市学力・学習状況調査の生活・学習調査では、1日に1時間～3時間、スマートフォンやタブレットを使用してSNS・動画を視聴している児童は45%を超えている。また、1日に1時間以上ゲームを行っている児童は80%を超える。
 ○運動を行う機会や運動を実施することは大切だと感じている児童は60%を超える。毎日運動を実施している児童はほぼ半数と少なく、体力テストの結果も市の平均と比べると、1学年を除いて下回っている。

(2)これまでの学校の取り組み
 ○規則正しく生活する態度を養うために生活習慣を見直すことのできるワークシートを活用した。スマートフォンの使用内容や時間についての授業を行った。
 ○体力テストや生活実態調査の結果、いのちの学習の内容を保護者と共有し、生活習慣の改善を図った。主体的に課題を解決することで運動する楽しさを味わえるような授業マネジメントをした。

今年度の目標

①アウトメディアと児童の生活状況の結びつきがわかるようなアンケートやワークシートなどの取り組みを行い、そこから課題を見出し、生活習慣の改善に生かせるようにする。
 ②体力を高めるための運動を計画・実践し、健康維持や体力向上に生かせるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○心も体も 支えあい ぐんぐん成長 あいざわっ子 ～「○○○プロジェクト」～ (学校保健委員会を中心とした取組) 《ねらい》 子ども自らが進んで体育・健康に関する活動を行うことで、自己の体力や健康に関する課題について見直し、解決していこうという態度を育成する。 《内容》 ・学校保健委員会による「アウトメディア」をテーマとした活動による改善の生活習慣の見直し、改善。ゲームやスマホ等の使用時間についても考える。 ・児童は自分のねる時刻を決め、達成するためのめあてをカードに記入し連絡袋に入れておく→毎月1週目の月曜日から金曜日に前日の布団に入った時刻などをチェックする。 (第1回学校保健委員会終了後から開始、長期休業明け3月まで) ○「心も体も元気！体力アップ大作戦」 新体力テストの結果をもとに中休み・昼休みを利用して運動に取り組む。 ・昨年度の持久走の活動を生かしていく。 ・その他に新体力テストの結果をもとに活動を考える。	○心も体も 支えあい ぐんぐん成長 あいざわっ子 ～「○○○プロジェクト」～ (学校保健委員会を中心とした取組) ・児童は自分のねる時刻を決め、達成するためのめあてをカードに記入し連絡袋に入れておく→毎月1週目の月曜日から金曜日に前日の布団に入った時刻などをチェックする。 (第1回学校保健委員会終了後から開始、長期休業明け3月まで) ○「心も体も元気！体力アップ大作戦」 上半期取り組んだ運動の振り返りを基に下半期もより効果的な運動を考えていく。 ・持久走の活動は継続する。